ISSN 0911-5587

柵

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 24

1997
MARCH

図書館の増築完成に寄せて

岡　部　　喬

十数年来の願望が叶った．6階建ての真新しい図書館を眺めながら、私はこれからが大変だなという思いにかられている．器が倍加され、加えて本格的に電子図書館の機能を果すとなれば、4倍の負荷が館員たちの肩に重なることになる．一方この私はさしたる貢献もなく、兼任制の館長職を終ろうとしている．就任時に運営委員時代の僅かばかりの知識で軽やかな気分で任務についたときと比べれば、退職近い今の感慨は重い．

先づ、これからの館長職の事を思うと、現代の急速な進化を遂げているマルチメディアを媒体とする複雑多様な図書館業務の内容からいって、兼任制の館長にはその他の負担を軽減して専任に近い形を配慮せざるを得ない時期に来ていると言いたい．私の場合は事務部長と2人の課長が黙って負担を肩代わりして下さったので、粗も見せず無事に過すことが出来たと言える．図書館の管理運営上の知識や経験もない代りに、学内でもっと強い発言力を発揮すべきであったと今になって反省している次第である．ただ大学間の相互協力が今後ますます強く要求されてくる事情を考慮して、他大学の館長、事務部長とはできる限りの情報交換とこれからのサービスについて話し合いの機会をもった．

ついで館員のうち司書の方々にこの紙面で加重なこととは知りながら、更に要望を加えることをお許し願いたい．最近の図書館がその利用者に学術情報を提供する仕組みが大きく変化していることに注目すれば、司書の方でも一段上の図書館学・情報学の研究と実務

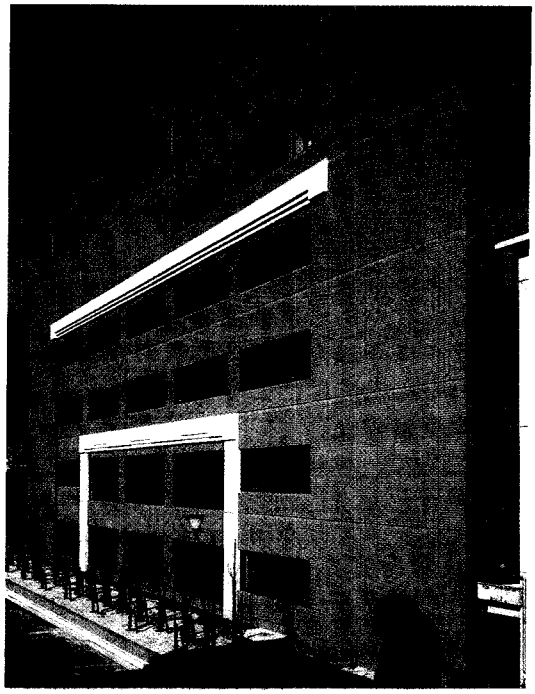
上の研さんを要求される．係長以上のリーダーは館員が一層の使命感に燃えてサービスに当る姿勢を取り続けさせる必要がある．学内外から無智な館長と旧守的な館員と批判されないような工夫が必要である．放置すると従来からの慣行を革新する人材は偶然によってしか現われなくなる．今はもう時間の余裕がない．図書館の蔵書形成、内部組織の効率的編成など急いで業績をあげねばならないときである．

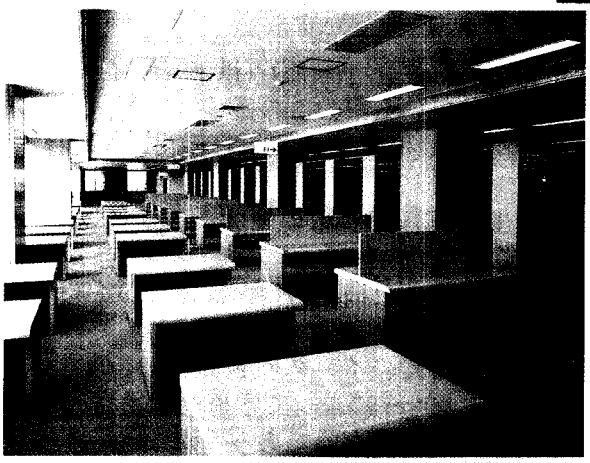
大学図書館が伝統的に受け継いできた資料収集計画に加えて、これからは図書館自身の見識と関心のもとに、独自の収集計画を立てて実行することが必要となるであろう．時にはその収集がある学部ないし学科に偏っていると非難されることもあろう．けれども大学図書館として必要な図書、資料の収集を継続的に行っている上に、図書館独自の計画に基いて系統的に収集を行うということを不当なことと言い切れない．それによって特色ある図書館蔵書が形成され、それが特色となって新しい研究が発展していくことが少くないからである．現在、大学で行われている研究と共に将来における発展の方向を明察する優れた館長、司書によって、特色ある収集が集積されることを私は望みたい．

館員は多数の学生、研究者との人的接触を業務とする以上、できるだけ高い教養と温和な性格を備えて欲しい．少々有能でも、意地悪で攻撃的な性格の持主はこの職場に似つかわしくないと思う．またこの職業の性質上、語学力、テーマに関する知識も常識的レベルを大きく越えていて欲しい．最近では情報学の知識とコンピューターなどの情報機器類の操作が何よりも要求されている．最後に、学内の教官側からは声こそ小さいが、欧米並みにアカデミック・ステータスをもった司書の出現を待望する声のあることを言い添えたい．私の狭い経験でも、こうした学者的司書の識見、教養の高さが他の館員に望ましい影響を与えている例を知っている．

最後に図書館を利用する学生・教官に注文を出してこの稿を終りたい．図書館のレーゾン・デートルがサービスにあるという観点に立つならば、大学図書館の成功の鍵は利用者サービスにあると言える．利用者サービスを熱意をこめてやればやるほど、利用者の図書館への期待度は増し、利用者の数も増え、その結果、館員はますます忙しくなるという矛盾した業務である．そのため人が要るのに、定員削減が加わって、必要な人員を大きく下廻っている．利用者サービスは、具体的には閲覧・貸出、利用者教育を含むレファレンス・サービス、相互貸借等を指している．これらのサービスを限られた少人数でダイナミックに行うためには利用者の側でも目録や文献調査についての基礎的知識や技術を身に付けて頂きたい．簡単な事柄を二度も三度も質問することのない状態を前提としてしか図書館の業務は成り立たないであろう．それが欠如している状況では、カウンターにおいてどれほど教育的配慮をしても、労多くして、益少ない結果に終る．根本的解決策として図書館側で行っているオリエンテーションとガイダンスに利用者側が素直に応じることを特に要望したい．

（おかべ・たかし　附属図書館長）





▲新館西側閲覧室全景▼

『池田家文庫マイクロ版史料目録』のデータベース化

森　岡　祐　二

はじめに

岡山大学附属図書館参考調査係には、一般市民を含む多くの人々から、池田家文庫の中のある人物やある事柄について調べたい、という問い合わせが頻繁によせられてくる．平成２年～４年に丸善株式会社の協力で、池田家文庫のうち藩政史料約65,000点のマイクロ化を行なったのは、こうした要望にこたえ、史料提供サービスをより円滑に行なうと同時に、原史料の保存という、図書館のもうひとつの重要な機能を両立させるためであった．

ところで、マイクロ化事業の期間とほぼ並行して、昭和45年に岡山大学附属図館が編集・発行した『池田家文庫総目録』（以下『総目録』という）の大幅な改訂・編集作業が同図書館スタッフを中心に行なわれた．これはマイクロフィルムの検索をより的確に行なえるよう、フィルム中のリール番号、コマ番号などを新たに付加しただけでなく、内容に関しても、主要分野に関しては史料をあらためてより詳細に調査し、書誌事項の精度を上げ検索上の手がかりを豊富にしたものである（詳細は後述するが、『総目録』全１巻1,135ページに対して、改訂増補[版]は全20巻、約５倍の分量であることが改訂の規模を示しているといえよう）．

この改訂版は『池田家文庫マイクロ版史料目録』改訂増補[版]（以下『マイクロ版目録』という）として丸善株式会社から発行・販売されているが、この冊子目録編集用の機械可読形式の原データ（以下「原データ」という）が、契約に基づき当館にも提供されていた．

平成６年度、当館ではこの原データを利用して来館者用の検索システムをパソコンMacintosh上で構築し、それなりの評価を得てサービス体制も概ね定着してきた．しかしながら、このシステムは検索項目はこれこれ、といった機能的側面はともかくして、来館者以外は利用できないといういわば決定的な限界があり、ネットワーク環境での情報発信が各方面から強く望まれていた．こうした要望に応え、インターネット上での情報提供サービス、とりわけ、ファイルそのものを匿名ftp serverによって学術的利用目的に限定した上で全国的レベルで提供するサービスを実現できないものであろうか、というのがこの作業を始めたそもそもの動機であった．

本稿はそうした問題意識のもとに試行した、冊子目録編集用機械可読データのデータベースへの変換作業に関する経過報告である．（但し、現段階では、冊子目録の出版権の問題が未解決であり、学内及びマイクロフィルム購入機関以外には一般公開できない状況にあることをお断りしておきたい．）

一連の作業の期間、館内はもちろん、総合情報処理センターをはじめとする学内各方面の絶大な協力を得てどうにか現段階まで到達することができた．その意味で、命名こそされていないものの、この作業は岡山大学ワーキンググループによるものということになる．一応の完成を見たデータベースは、外字の扱いその他でやや問題点を残してはいるものの、検索可能という意味でほぼ実用に耐え得るものになったのではないかと思っている．

１　データ概要

紙面の都合で、詳細な説明は省くが、原データ（Hanseishiryo.original）は、さきにも述べたように改訂版冊子目録編集・印刷用として作成された「マイクロ版目録」機械可読デ

ータであり、完成時のデータの大きさは、約12メガバイト、レコード件数は約33,500件である．（表－1、表－2参照．それぞれのファイルについては後述）

表－1　データの大きさ

-rw--------	1	morioka	user	12118175	11月12日14時01分	Hansei. total
-rw--------	1	morioka	user	8611713	11月12日14時02分	Hansei. total. compact
-rw-rw-r--	1	morioka	user	5454218	10月16日16時41分	Hanseishiryo. original
-rw--------	1	morioka	user	5443138	11月8日13時47分	Hanseishiryo. work

（注：末尾がファイル名．作業上の便宜によるもので、任意の名称にすぎない）

表－2　池田家文庫藩制史料マイクロ目録 分野別件数一覧（8／10／2現在）

Hansei.A	（総　　記）	件数＝	2,077件
Hansei.B	（領　　地）	件数＝	474件
Hansei.C	（藩　　侯）	件数＝	8,338件
Hansei.D	（藩　　士）	件数＝	10,147件
Hansei.E	（法　　制）	件数＝	1,624件
Hansei.F	（行　　政）	件数＝	2,052件
Hansei.G	（財　　政）	件数＝	1,430件
Hansei.H	（軍　　事）	件数＝	1,343件
Hansei.K	（産　　業）	件数＝	183件
Hansei.L	（社　　会）	件数＝	316件
Hansei.M	（土木建築）	件数＝	391件
Hansei.N	（交通通信）	件数＝	353件
Hansei.P	（宗　　教）	件数＝	918件
Hansei.R	（教育文化）	件数＝	699件
Hansei.S	（国事維新）	件数＝	3,072件
Hansei.T	（絵　　図）	件数＝	10件
Hansei.Y	（　雑　）	件数＝	106件
Hansei.Z	（そ の 他）	件数＝	2件
貴重書		件数＝	9件
合　　計			33,544件

2　処理の概要

表－1の、Hanseishiryo. originalは先に触れたように、かつてMacintoshにロードされていた原データであり、次のような形式である．（例－1）ただし、原データ中には、「藩士」編などを中心に、注記事項があまりにも長大であるため、分割を余儀なくされたものがあり、厳密な意味ではすでに、原データを若干加工したものとなっている．（例－2）

例－1　原データ中のレコード形式

A2－5　TAB-001 0388　TAB-00050　備陽記　合本5（巻第8～巻第9）　石丸定良編輯．〔明治期〕　和装，転写本1冊　転写は池田家による．　原本：享保6年8月自序（巻第1～巻第23）．巻第8：御野郡之内古城，津高郡之内口分古城跡，津高郡之内奥分古城跡，赤坂郡之内古城跡，盤梨郡之内古城跡，和気郡之内古城跡，邑久郡之内古城跡，上道郡之

内口分古城跡，上道郡
（中略）
備前国之内鍛冶出所之事，備前国邑久郡長船村鍛冶祐定先祖之事，御国御巡見之事．
新319

例－2　分割を余儀なくされたデータの例

川崎兵右衛門，川崎夫兵衛，川崎夫兵衛．　堀内判助，堀内彦兵衛，堀内四郎右衛門，堀内四郎右衛門．　近藤某，近藤惣大夫．　菅沼大和，菅沼某，菅沼八郎左衛門，菅沼源兵衛，菅沼小源太．　楢村新五兵衛，楢村新三郎，楢村市郎右衛門，楢村孫之丞．　池田三郎左衛（後略）

分割したデータに関しては、その本体（最初の）レコードまでたどりつき、そこに記載された項目（分類記号、リール番号、コマ番号等－＞後述）を、それぞれ手作業で補い、その１、その２、といった形式で一連のものであることを識別できるように加工した．Unixのviエディタの標準サイズは１レコード当たり3kバイト程度が限界であるため、設定を変更しない限りこのようにする以外に当面方法がなかったからである．原データの保全のため、この作業は、原データをコピーした別のファイル（Hanseishiryo. work）を対象としておこない、万一の際復元が可能のようにした．

原データは１レコードが、改行コード（\n）で区切られ、各欄（項目）はタブ（\t）で区切られている．レコードは分類記号、リール番号といった、基本的な項目を除けば特定項目が存在したりしなかったりするが、目にはみえないが、タブ（\t）が規則にはいっているため、仕様書を参照することにより、これらに関する情報はプログラム的に識別できる．しかし、上の例にみられるとおり、簡潔ではあるが、各欄を明示的に示すほうが望ましいと考え、次のようなプログラム（AWK言語［Unixに標準装備されている簡易言語］による）で見出しをつけることにした．

```
#各欄に見出しを付けて展開する
#プログラム名：prog. hansei. midashi
#INPUT: Hanseishiryo. original
#OUTPUT: Hansei. total

BEGIN {RS = "\n" ; FS = "\t" }

{print   "分類番号      =", $1
print    "リール番号    =", $2
print    "コマ番号      =", $3
print    "標題・巻次    =", $6, $7
print    "部編名        =", $8
print    "作成者        =", $9
print    "宛名          =", $10
print    "作成年次      =", $11
print    "形態          =", $12
{if (length ($13) > 2) print "数量（単独）=", $13}
{if (length ($14) > 2) print "数量（集合）=", $14}
print    "一般注記      =", $15
```

```
print   "内容細目      =",$16
print   "内容年次      =",$17
print   "池田旧棚番号 =",$18
print   " "
}
```

この実行結果がファイルHansei.totalである．そのひとつを、例－3に示す．

例－3　見出しのついたレコードのサンプル

分類番号　　＝A2－5
リール番号　＝TAB-001
コマ番号　　＝0388
標題・巻次　＝備陽記　合本5（巻第8～巻第9）
部編名　　＝
作成者　　＝石丸定良編輯
宛名　　＝
作成年次　　＝〔明治期〕
形態　　＝和装，転写本
数量（単独）＝1冊
一般注記　　＝転写は池田家による．原本：享保6年8月自序（巻第1～巻第25）．
内容細目　　＝巻第8：御野郡之内古城，津高郡之内口分古城跡，津高郡之内奥分古城跡，赤坂郡之内古城跡，盤梨郡之内古城跡，和気郡之内古城跡，邑久郡之内古城跡，上道郡（後略）
内容年次　　＝
池田旧棚番号＝新319

このデータは、各レコード、欄（項目）はそれぞれ空白行（""）、改行コード（"\n"）で区切られる．（「内容細目」は見かけ上は複数行にみえるが、行末に改行コード（"\n"）が入っていないので、論理的には長い1行である）

さて、これで見た目には少しわかりよくなったが、利用上好ましくない点もいくつかある．さしあたり、データが必要以上に冗長になるばかりでなく、致命的な点は、折角の数値項目であっても、見出しをつけたため、処理上はその項目が文字列と解釈され、数値としての範囲指定の検索などがこのままではできないことである．データの冗長性を多少とも緩和するために、実態のない項目を省いたものがHansei. total. compactであるが、そうしたところで本質的にはその事情は全く変わらない．（例－4）
（ただし、substr（組み込み文字列関数の一つ）を使って、見出しを除いたデータの実態部分だけを部分文字列として取り出す処理を行えば話は簡単になる）

例－4　実体の存在しない欄を省いたレコードの例（Hansei. total. compact）

分類番号　　＝D3－312
リール番号　＝TDC-036
コマ番号　　＝0326
標題・巻次　＝〔先祖【並】御奉公書之品書〕．　石野浪衛
形態　　＝堅帳
数量（単独）＝1冊
一般注記　　＝元陪臣．　旧主：家老・土倉．

内容細目　　＝先祖：初代・石野清次郎，２代・石野喜左衛門，３代・石野喜左衛門，４代・石野清次郎，５代・石野甚次郎，６代・石野伊平太，７代・石野清之丞．書上：８代・石野浪衛；
内容年次　　＝明治２年～明治３年
池田旧棚番号　＝奉ノ１号ノ内〔イ〕19番

３　検索

検索については、個別の検索をしたければ、AWK 言語で記述すればきわめて簡単におこなえるが、反復式の検索が可能なように、何人かの専門家に指導を受けながら、まがりなりに単純な検索なら反復可能なプログラムを作成した．

最後に、その検索プログラムにより、「千馬三郎」をキーワードとして検索した結果を紹介してこの記事をしめくくることにしたい．（ちなみに、このスクリプトは全項目に含まれる、すべての文字列を検索対象としているので、ノイズが含まれる可能性が高いうえ、時間も少々かかるが、検索もれだけは完全に防止できるのが利点である）

例－５　キーワード「千馬三郎」による検索例
（チョット待ってね！）

１．
分類番号　　＝D3－1447
リール番号　　＝TDC-163
コマ番号　　＝0001
標題・巻次　　＝〔先祖【並】御奉公之品書上〕．千馬乙三郎
部編名　　＝
作成者　　＝
宛名　　＝
作成年次　　＝
形態　　＝竪帳
数量（単独）　＝１冊
一般注記　　＝
内容細目　　＝先祖；高祖父・千馬内蔵之介，祖父・千馬求女之介，父・千馬三郎兵衛（浅野内匠頭家臣）．書上：千馬藤之丞，千馬四郎左衛門宣忠（藤之丞を改名），千馬三郎治常員，千馬喜兵衛常員，千馬留次常徳，千馬喜兵衛常徳，千馬小十郎（千馬四郎左衛門と改名），千馬喜兵衛（千馬兵三を改名），千馬小藤治，千馬乙三郎常謹；
内容年次　　＝享保４年～明治３年．
池田旧棚番号　＝奉ノ12号ノ内セ２番

２．
分類番号　　＝※D10－1
（後略）

以上２件見つかりました．

（もりおか・ゆうじ　事務部長）

池田家文庫「絵図データベース」の作成について

倉　地　克　直

岡山大学附属図書館が所蔵している池田家文庫は、江戸時代に岡山藩主であった池田家に伝えられた古文書・古典籍からなるものである．そのうち岡山藩政文書は約6万8千点にものぼり、藩政文書として有数の規模と内容をもっている．このうち古文書類については1990年から92年にかけてマイクロ化が行われ、92・93年には『改訂増補・池田家文庫マイクロ版史料目録』も刊行された．これにより池田家文庫の利用が飛躍的に前進し、岡山はもとより全国の研究者によって岡山藩の研究が活発に進められるようになっている．

ただし、藩政文書のうちでも絵図類は、技術的な問題からマイクロ化事業から除外され、いわば画龍点晴を欠く形となっていた．幸いなことに、1996年度になって、この絵図の画像データベースを作成する事業が文部省の科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を交付され、実現する運びとなった．事業の完成には数年間を要すると予想されるが、これによって岡山藩政史料全体の保存・公開の体制が文字通り完成されることになったわけである．

池田家文庫絵図類の特徴

池田家文庫の絵図類は、1国図、2郡図、3城絵図、4役所絵図、5屋敷絵図、6城下図、7普請図、8交通図、9他所図、10日本及び世界全図、11寺社・学校・吉凶・仏事関係絵図、12戦略絵図、13雑、に分類されており、総計3千点にものぼる極めて充実したものである．

このうちまず注目されるのは、備前国と備中国の国絵図である．これは、江戸幕府が全国一斉に諸大名に作成させ提出を命じたもので、池田家文庫には寛永・正保・元禄の原寸大の控図が残っている．この他、慶長期のものかと思われる備前国図や日本全国60余州の切絵図も貴重なものである．郡図の中では、池田光政による藩政改革期に各郡の郡奉行が手控えとした備前国各郡の絵図が、極めて興味深いものである．

役所図では郡会所・町会所の絵図が、屋敷図では岡山城本丸の表書院等・二の丸の諸建物の絵図、および江戸の本屋敷・向屋敷・築地屋敷の絵図がそれぞれ注目される．岡山城下図では、寛永9年（1632）に光政が鳥取から入封した時の屋敷割りを示す岡山古図、および元禄・宝永・文久の各時期の城下絵図が極めて貴重なものである．さらに普請図では、京都御所の造営や江戸城の堀浚えに関係した絵図類が目を引く．

今年度は以上のような1から7までの分類に属する絵図をデータベース化する作業が実施され、以後順次作業が進められる予定となっているが、その過程で貴重な絵図類の存在がさらに確認されるものと期待している．

「絵図データベース」の目的

絵図類の保存・公開には、文書類にはない困難がある．まず何より、大型の絵図の場合にはそれを全面展開することのできる場所がない．しかも、皺の曲げ延ばしなどによって彩色が剥落するなどの危険があり、度々展開して公開することは史料保存上も好ましくない．つまり、絵図類を利用するためには、文書類以上にそれを二次的媒体に移し換えることが求められているわけである．

この二次的媒体としてはカラーフィルムによる写真撮影がまず考えられるが、絵図類は大型なものが多いためにサイズの大きなフィルムが必要であり、絵図上に書き込まれた細かな文字まで判読可能であるためには極めて高画質の画像が求められる．しかも、この画像を実際に利用するためには相当の拡大が必要であるが、幸いなことに現在では電子メディアがそうした要求に応えられるまでに発達しており、画像のデジタル化が極めて有効な方法だと考えられる．

また、従来から絵図類の利用にあたっては、1970年に作成された『池田家文庫総目録』が使用されているが、その記載事項はあまりに簡略に過ぎ、正確で多角的な検索に十分に応えられないものである．そのため、一点一点の絵図について、書誌的な基礎情報や書込み・付箋・張紙などの関連情報を充実させ、さらにそれらを電算化することによって、多角的な自動検索が可能なようにすることが求められている．

そして、この画像情報と目録文字情報とを一体のデータベースとして運用することによって、極めて効率的で高度な絵図利用が可能になると考えられる．

「絵図データベース」の作成

今回の池田家文庫絵図類のデータベース化は、以上のような意図のもとに進められている．具体的な作業としては、

1　予備調査により、絵図一点一点につき、どのような画像を何カット作成するかを設計し、あわせて目録情報を整備する．
2　原史料をカラーフィルムで撮影し、現像する（その際、史料の性格や規格により三種類のフィルムを使用する）．
3　画像のスキャニングによりデジタル変換し、さらにこれにJPEG圧縮をかけCD-ROMに格納する．
4　目録情報を入力して、文字データを作成する．
5　画像情報と目録情報とを一体管理するソフトにより、「絵図データベースシステム」を構築する．

なお、絵図類のうちには相当に破損の甚だしいものもあり、史料の保存上はもとより、写真撮影のためにも補修の必要なものが多数ある．それらの補修作業もこの機会に進める予定である．

「絵図データベース」の利用

今回構築される「絵図データベース」は、次の三つのタイプの活用が可能なものとして構築されている．

1　ホームページを作成し、インターネットを通じて広く世界へ発進する．ただし、発進情報の選択・編集・利用の見地から、文字の情報、画像ともに簡略なものとする．
2　各種のLANシステムを通じて、全ての絵図の画像と文字の情報を提供する．このタイプでは、絵図一点につき一画像データとし、中間精度の画像を提供する．
3　来館者閲覧システムでは、2に加えて、一つの絵図に対応した全ての精密画像および関連画像（関連文書や箱・袋・包紙・付箋・端裏などの画像）を提供する．

なお、プリントアウトについても今後検討する予定である．

以上述べたように、今回の「絵図データベース」の作成によって池田家文庫絵図類の利用は飛躍的に改善されるだろう．多くの皆さんがこの事業の完成に御助力くださることを期待する．

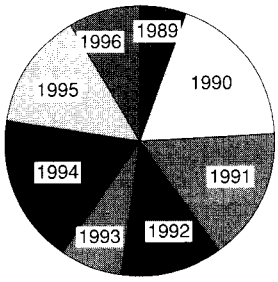
（くらち・かつなお　文学部助教授）

LIBRARY REFRESHの7年

吉見賢一

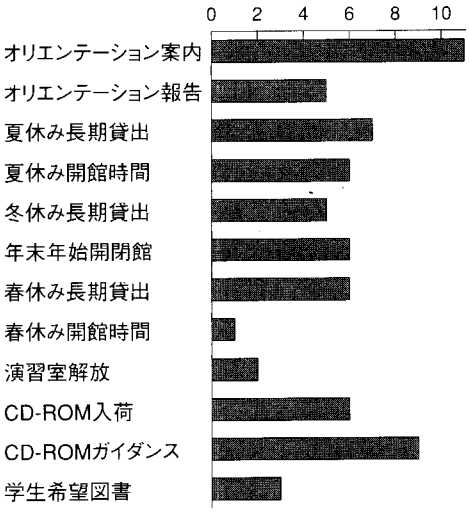
ライブラリー・リフレッシュの100号が1996年3月14日付けで発行された．1989年（平成元年）8月22日付けの創刊準備号から、106号までの約7年間のライブラリー・リフレッシュについて述べてみたい．

岡山大学附属図書館の館報として「楷」があるが、ライブラリー・リフレッシュは、「楷」を補完する形で、主に中央館から利用者である学生・教職員へのお知らせを掲載している．しかし、創刊準備号では「岡山大学附属図書館新電算化システム・ニュースレター」のサブタイトルが示すとおり、図書館に専用の電子計算機が導入され、これによる「図書館情報システム」の広報誌として、「図書館のリフレッシュする姿をお知らせする」という目的で発行されたが、5号の「CD-ROMの利用について」という記事が示すように、図書館情報システムの範囲が図書館専用電子計算機を利用したもののみではないことが窺える．実際、6号では　題字を変え、編集も「岡山大学附属図書館新電算化システム・ニュースレター編集委員会」を単に「ニュースレター編集委員会」、サブタイトルも「岡山大学附属図書館ニュースレター」に変更し、記事としてオリエンテーションの案内を載せるなど編集方針の変化が見られる．当初の発行目的は、わずか6回で拡大方向に変更されたわけである（「楷」15号「図書館広報この三年」参照）．これ以降、『ライブラリー・リフレッシュ＝図書館からのお知らせ全般』という図式に変化はない．「ニュースレター編集委員会」の表示は6、7、9号にしかなく、以後編集者の表示はない．現在、編集は「楷」、附属図書館概要、利用案内などと共に図書館広報委員会が行っている．



年度別発行号数

記事には、オリエンテーションの案内、休暇中の長期貸出し、年末・年始の開館スケジュールといった年中行事に関するものが多いが、池田家文庫藩政史料マイクロ化（14、38、40、42、48号、号外1、2号）、岡大OPAC（16、35号）、外部データベース利用（20、100号）、新着図書コーナー（22号）、開館時間帯変更（26、47、73号）、ILLシステム（46、88号）、身障者用エレベータ工事（65、67、73号）、入退館システム（72、79号）、CD-ROMサーバの導入（61、74、75号）、CD-ROMサーバの同時接続の改善（90、95、96号）、インターネット上のサービス（87、92、96、99号）など、サービスの拡大、社会情勢の変化への対応などが取り上げられている．このほか、



記事の掲載回数

電子資料であるCD-ROMの紹介（5、 9 、12、31、59、66、67号）及び利用案内（69、86、89、93、102号、説明会・ガイダンス・サーバ休止のお知らせを除く）についても多くの紙面が割かれている．ニュータイプの図書館案内の記事が52、53号にあり、「オリーブ（OLIVE, Okayama University Library Visitors Entrance Guide、「楷」18号「オリーブ：OLIVE 現状と課題」等参照)」と命名され、それを利用したオリエンテーションの案内が56、57号にある．オリエンテーションは翌年度以降も毎年実施され、パソコンを利用して説明、と記されている（64、83、98号）が、図書館利用案内システム「オリーブ」の名前の使用はこのとき一度のみである．よほど不評であったのだろうか．ちなみに、現在図書館内部でも「オリーブ」の名前は使われておらず、職員でもその名前をほとんど知らないようである．行政文書が平成５年度（1993年度）から、それまでのB判中心からA判中心となり、ライブラリー・リフレッシュも61号（1993年12月28日付け）からA4判になった．広くなった紙面のレイアウトには、読みやすくするための工夫であろうか、２段組みが行われている．（ちなみに、２段組みは61号と66号のみである．）新しくなったライブラリー・リフレッシュらしく、「図書館はリフレッシュ中」の記事を載せている．現在もまた図書館はリフレッシュ中である．

次は、形式的なことであるが、ライブラリー・リフレッシュの題字は５種類が使われている．先にも少し触れたが、B判時代に２種、A判化されてから２種、その他に英語版に１度だけ使われた（67号）ものがある．B判時代にはB5判とB4判のものがあり、基本的にはB5判１枚であるが、記事が多い ときにはB4判１枚（B5判２枚分）というところであろうか．ただし、1、２号は内容的に連続した記事をB5判１枚づつで同時に発行している．A判になってからは、A4判１枚が原則で、記事が多い場合には同時発行とするが、内容を分割しにくい場合は枝番を付したり（92号）、２枚組（99号、両面印刷）としている．号外は、池田家文庫藩政史料マイクロ化の際に、「コンバーションセンター通信」として２回発行されている．号外２号の記事が「マイクロ化作業フロー（1)」であるので、「(2)」以降が予定されていたのであろうが、発行されていない．同様な例として、21号の「図書館利用統計 ライブラリー・リフレッシュの題字報告（その1)」がある．英語版は67、69、104号の３回発行されている．69号は日本語版69号ではなく、68号を基に英語化されており、実際、発行日付は日本語版68号と同じであり、日本語版69号とは異なる．英語版の発行には多くの手間がかかり、69号と平行して作業を行っていたためのミスであろうか．

ライブラリー・リフレッシュ
岡山大学附属図書館蔵書総合化システム・ニュースレター

創刊準備号～５号

ライブラリー・リフレッシュ

６号～60号

Library refresh

61号～66号

LIBRARY REFRESH

67号～最新号

LIBRARY REFRESH

67号【英語版】

岡山大学附属図書館の館報としての「楷」は、原則年２回の発行であり、デイリーなお知らせに利用するのは不可能である．したがって、利用者と図書館を結ぶ有効な手段として、ライブラリー・リフレッシュは今後とも発行し続けられるであろう．図書館の『新しい姿』を伝えることはサービスの一環であり、より利用しやすいものとするためにも、ライブラリー・リフレッシュの活用を図らなければならない．

（よしみ・けんいち　情報サービス課長）

マスカット

中央館オリエンテーション報告

中央館では例年どおり新入生オリエンテーションとCD-ROMガイダンスを行いました.

〈新入生オリエンテーション〉

期間：4月10日～4月26日　場所：中央館2階フロア

内容：パソコンによる図書館案内と蔵書目録の使い方　対象：新入生他

参加者は昨年より多く444名でしたが、新入生の全体からみると約5分の1でした．対応の変化も含めて、もっとアピールが必要と思われます.

〈CD-ROMガイダンス〉

期間：6月10日～6月14日　場所：中央館2階情報検索コーナー

内容：CD-ROMの検索案内　対象：教官、大学院生、論文作成段階の学部生

参加者は25グループ、127名でしたが、先生方の指導もあり、卒論対策として文献を探す学生たちの真剣な問いかけがありました．内容的には外国文献のMEDLINE、CCODのデータベースが多く使われました．J-BISC、雑誌記事索引等の日本語文献のデータベースが昨年より増加したので、文系の学科の利用がありました.

FirstSearchが利用できます

OCLCによる総合データベースサービスで、50サーチ検索できるパスワードが図書館にあります．1パスワードの料金は9,000円で、公費のみの受付となります．また50サーチ不要の方には、1サーチからの検索も可能です（サーチ数で利用料金を計算します）．データベースの分野は、科学全般、文学・芸術、経済・ビジネス、教育、社会学、行政・法律、医学・健康など広範囲にわたっています.

CD-ROMサーバの検索ソフトにWindows版も

今までCD-ROMサーバの検索ソフトはDOS版でしたが、5月からWindows版検索ソフト（Win SPIRS）も提供できるようになりました.

このWin SPIRSはDOS版と異なり、ユーザ側に検索ソフトをインストールしてから使用できます．又、インストール手順について簡便なマニュアルを作成しました.

WWWホームページ　URL:http://www.okayama-u.ac.jp/user/li/CD-ROM/cdwin95.html

中央館工事に伴う臨時休館

建設中の新館と既設館との間の渡り廊下の工事と併せて、既設館の改修工事が行われ、長期間の臨時休館となりました.

◎9月30日(月)～11月4日(月)……2階及び3階閲覧室を閉鎖

この期間中は1階及び書庫の利用ができたので、書庫の利用時間を延長しました.

月曜日～金曜日……9時～20時30分

土曜日・日曜日……10時～15時30分

◎11月5日(火)～1月12日(日)……全館休館

◎3月1日㈯～4月6日㈰……全館休館
臨時休館に伴う図書の長期貸出を行いました．
この臨時休館中も次の図書館業務は事務室を移動して行いました．
(1) 紹介状の発行
(2) 複写及び現物貸借依頼
(3) 自然科学系新着雑誌の閲覧
(4) 学部等との図書・雑誌の受渡し
(5) 池田家文庫等本学附属図書館がオリジナルを所有する資料の掲載許可

図書資料の移動について

10月に新館との渡り廊下新設のため、一階西側の一部事務室を2階西側（社会科学閲覧室）に移し、社会科学閲覧室にあった図書は2階自然科学技術閲覧室及び3階人文科学閲覧室に移動し、閲覧机は一部を残し撤去しました．また、3階西側部分を新館オープンまでの間立入禁止としました．そして、人文・社会科学系の図書は3月になって新館に移動させました．

池田家文庫絵図データベース作成　科研費に採択

平成7年10月岡山大学池田家文庫絵図類データベース作成委員会が発足し、平成8年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」を要求していましたが、7月交付決定が通知されました．10月同仕様作定委員会で仕様書が決められ、11月一般入札が行われました．又、平成9年度のデータベース計画調書を12月に提出しました．

池田家文庫絵図データベース作成作業はじまる

7月に絵図類の一部の採寸等の事前作業を行い、つづいて、文字情報の記録等のデータベース構築にむけての作業が続いています．12月～2月にかけて部分的に絵図の撮影が行われました．この作業の内で補修の必要な絵図も多く見つかりました．

鹿田分館開館時間延長

平成8年9月2日より鹿田分館の閉館時間を午後8時から午後9時に変更しました．変更後の開館時間は平日9：00～21：00、土曜9：00～16：00に延長されました．

鹿田分館複写システムを変更

平成8年10月1日より鹿田分館の複写システムが変わり、図書を傷めないミノルタBC3000機を導入しました．校費はカード式（カードは鹿田地区は各教室で管理、他地区はカウンターで管理)、私費はコイン式になりました．利用時間も閉館時間まで延長され、土曜日も利用できます．複写料金は校費・私費とも1枚20円です．

医学部卒業生の方からパソコン2台寄贈

岡山大学昭和41年度卒業生の方から30周年記念として鹿田分館にパソコン2台（Mac：Performa5260、5270）を寄贈していただきました．2階リサーチフロアに設置し、検索やインターネットに活用しています．

CD-ROM版JCR（Journal Citation Reports）自然科学編を購入

鹿田分館では平成8年度からCD-ROM版JCRを購入しています．JCR自然科学編は学術雑誌4,500誌以上の論文引用データをもとに作成された雑誌評価のためのデータベースで、各雑誌のインパクト・ファクター（文献影響率）を始めとしたさまざまな指数が調べられます．更新は年1回です．利用のためのセミナーも行っています．

資源生物化学研究所分館の要覧作成について

資生研分館では平成6年度末に「史料館」が完成し、積極的な市民開放も行い、平成7年度には、所外者の入館・利用が延べ600人に達しました．

また、前身が大原美術館と同じ大原孫三郎氏設立（大正3年）の財団法人大原農業研究所の図書館であったため、倉敷を訪れる方々の歴史・観光コースにも入っています．

このため、利用案内も兼ねた要覧を作成しました．カラー写真を多数収めた、A3版1枚2つ折りで、外国人研究者のための英文ページも設けました．

会議

◆学外

4.25～4.26　第44回中国四国地区大学図書館協議会総会（於カルチャーホテル）
・情報化の進展に伴う新しい情報提供サービスの在り方について、その他

4.26　第23回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於カルチャーホテル）
・電子的情報サービスの在り方について、その他

5.28　平成8年度国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京医科歯科大学）
・大学図書館の当面する諸問題について

6.17　平成8年度岡山県図書館協会総会（於岡山県総合文化センター）
・平成8年度事業計画について、その他

7.3～7.4　第43回国立大学図書館協議会総会（於神奈川県立県民ホール）
・平成8年度事業計画について、その他

9.11～9.13　第37回中国四国地区大学図書館研究集会（於広島厚生年金会館及び広島大学附属図書館）
・マルチメディア時代に対応した大学図書館の在り方について

10.17～10.18　平成8年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議（於島根厚生年金会館）
・特殊文字で書かれた図書の整理について、その他

11.27～11.28　第9回国立大学図書館協議会シンポジウム（於名古屋大学附属図書館）
・大学図書館と公共図書館の共生について

9.1.23　平成8年度国立大学附属図書館事務部長会議（於ラポート兼六）
・電子図書館への取り組みについて、その他

◆学内

4.18　平成8年度第1回附属図書館運営委員会
・図書館資料について、その他

6.13　池田家文庫絵図類データベース作成委員会
・データベース化の進め方について、その他

6.25　平成8年度第2回附属図書館運営委員会
・平成8年度図書館資料購入費配当予算額（案）について
・教育・研究の活性化を図るための特別経費の要求について、その他

7. 1　平成8年度第1回池田家文庫特殊文庫委員会
・平成8年度事業計画について

・地方史料の複製許可について
10.15　平成８年度特別図書選定小委員会
10.15　平成８年度附属図書館中央館備付「全学共用図書」（人文・社会科学系）選定小委員会
10.15　平成８年度附属図書館中央館備付「全学共用図書」（自然科学系）選定小委員会
12. 2　平成８年度第１回附属図書館広報委員会
・館報「楷」No. 24の刊行・編集方針について
・概要1997の刊行・編集について、その他
12.17　平成８年度第３回附属図書館運営委員会
・平成10年度歳出概算要求事項について
・教育・研究の活性化を図るための特別経費について、その他
9.2.6　平成９年度図書資料（大型コレクション収書計画に関する選定小委員会
2. 6　平成９年度附属図書館中央館備付自然科学系図書資料（本省提出）収書計画に関する選定小委員会
2.24　平成８年度第２回附属図書館広報委員会
・図書館新館竣工パンフレットについて
・利用案内等について
3.10　平成８年度第２回池田家文庫特殊文庫委員会
・池田家文庫絵図類データベースについて
・平成９年度事業計画について

研修

・平成８年度目録システム地域講習会
参加者　嵯峨奈美子　世戸原紀子　近迫仁美（7.30～8.1）
・平成８年度第３回情報ネットワーク担当職員研修・ネットワーク管理Ⅰ
参加者　大元利彦（10.28～11.1）
・中国四国地区図書館目録所在情報サービス説明会
参加者　木村正昭　三浦葉子（9.1.31）

編集委員会から

寒暖の差の大きかった冬から春を迎える頃になりました．

正面の時計塔より高い新館が完成しました．マスカットの記事にあるように、この１年間は新館の建築・本館の改修工事等で、長期間休館し、利用者に多大な迷惑をおかけしました．又、近隣の図書館には学生の利用に便宜をはかっていただき、ありがとうございました．この誌面をかりて、御礼申しあげます．

３月27日の新館完成セレモニーを経てとりあえず４月からオープンしますが、まだ、図書・雑誌などの排架が完成しておりません．夏休みなどに、又、資料の移動を行う予定です．新年度も引っ越しの年になりそうです．

岡山大学附属図書館報「楷」　No. 24　　平成９年３月25日
発行人　森岡祐二　　編集　広報委員会　　表紙デザイン・レイアウト　清水國夫
岡山大学附属図書館発行　　〒700　岡山市津島中三丁目1-1　電話086-252-1111